

プレスリリース

## 米国バーミングラム市における「第38回年次日本・米国南東部会日米合同会議」でコンドリーザ・ライス氏が基調講演

アラバマ州バーミングラム市発——日本と米国南東部7州の貿易、投資および文化交流の促進を目指す「第38回年次日本・米国南東部会日米合同会議」が、本年11月に開催されます。米国第66代国務長官を務めた[コンドリーザ・ライス](#)博士が基調講演を行うことになりました。



Birmingham native Condoleezza Rice will speak at the SEUS Japan joint forum.

ライス博士はアラバマ州バーミングラム市出身で、2005年から2009年まで米国の外交を司る国務長官を務め、国家安全保障に関わる重責を担いました。この度、バーミングラム市で開催される「第38回年次日本・米国南東部会日米合同会議」で基調講演を務めて頂く運びとなりました。博士の講演は11月16日に行われます。

[「第38回年次日本・米国南東部会日米合同会議 \(SEUS Japan 38\)」](#)は、経済・文化両面の結び付きを拡大・深化することを目指すイニシアチブの一環であり、米国南東部7州および日本からの実業界のリーダー、経済開発担当者および政治任用職員など数百名が参加する予定です。この合同会議は11月14～17日にシェラトン・ホテル バーミングラムにて開催されます。

グレッグ・キャンフィールド アラバマ州政府商務長官は、毎年開催される「日米合同会議」には、過去40年間日本と米国南東部の財界首脳や専門家が一同に会し、共に共有する各種関心事を取り上げ意見交換してきた、と述べています。さらに長官は、今年のテーマは「継続的イノベーションを通じた持続可能な未来創造へのイニシアチブ (Initiative For a Sustainable Future - Through Continuous Innovation)」であるため、多彩なキャリアと国際関係・外交分野で深い経験を持つライス博士に講演頂くのはまさに理想的であると語っています。

キャンフィールド商務長官は続けて「アラバマ州出身のライス博士は、世界情勢、国家安全保障および教育に最も精通している識者の一人であります。米国とアジア、特に日本との関係は深化しつつある今日 講演での博士の視点論点が、今回の会議のハイライトになるでしょう」とコメントしています。

## 輝かしい経歴

2005年1月、ライス博士は女性として2人目、そしてアフリカ系米国人女性としては初めて、米国国務長官に就任しました。それ以前はジョージ・W・ブッシュ大統領の下で、女性として初めての国家安全保障担当大統領特別補佐官という重要なポストを務めました。

1989年から1991年にかけて、ジョージ・H・W・ブッシュ大統領の下で国家安全保障会議の様々な要職を歴任。

1981年にスタンフォード大学で教職に就いて以来、ライス博士は長年にわたって同大学と関係を維持しています。1993年から1999年にかけて、財務・学務両面を統括する学務担当副学長を務めました。その間、15億ドルの年間予算を管理するとともに、1,400人の教職員と14,000人の学生に関わる教務を担当しました。

現在ライス博士は、スタンフォード大学ビジネススクール (GSB) のグローバル・ビジネスおよび経済担当のデニング・プロフェッサー (Denning Professor) を務めているほか、同大学のフーバー研究所公共政策担当バーバラ・ステイヴンソン (Barbara Stephenson) ・シニアフェロー、および同大学の政治学教授を兼任しています。さらに多数の企業および非営利団体の理事を務めるとともに、バーミンガム市に本拠を置く [リージョンズ・フィナンシャル社 \(Regions Financial Corp\)](#) の取締役会の上席顧問も務めています。

また博士は、カリフォルニア州のシリコンバレーおよびワシントンD.C. に拠点を置く国際的な戦略コンサルティング会社、[ライス・ハドリー・ゲイツ社 \(Rice HadleyGates LLC\)](#) の共同創業者でもあります。同社は新興市場に参入する大企

業を支援しています。

加えて、ライス博士は著者・共著者として多数の書籍を上梓しており、『ライス回顧録 ホワイトハウス 激動の2920日 (No Higher Honor: A Memoir of My Years in Washington)』および『コンドリーザ・ライス自伝 (Extraordinary, Ordinary People: A Memoir of Family)』の2作はベストセラーとなっています。

## 日本・米国南東部会 (SEUS JAPAN) について

米国・南東部日本協会 (SEUS Japan Association) は 1975 年に設立されました。日本側のパートナーであり、日本の一流企業のリーダーや政府関係者も多数所属する日本・米国南東部協会 (Japan-U. S. Southeast Association) と密接に連携しています。最初に参加したアラバマ州に加えて、フロリダ、ジョージア、ミシシッピ、ノースカロライナ、サウスカロライナ、テネシー各州も会員になっています。



Honda has produced more than 3 million vehicles in Alabama since launching production in 2001.

昨年度、米国と日本およびアジア諸国間の双方向の貿易額は300億ドルを超えました。日本企業は同地域で投資活動を積極的に展開しており、特に自動車の組立や自動車部品製造分野への進出が顕著ですが、化学から先進素材に至る幅広い分野の日本企業も米国南東部に進出し、製造施設を既に確立しています。

アラバマ州は、同地域と日本を結ぶ強固な絆を示す好例です。昨年、アラバマ州の企業は総額6億ドル近い製品を日本に輸出し、日本は同州にとって屈指の貿易相手国になっています。1999年、自動車メーカーのホンダがアラバマ州に自動車組立工場を開設すると発表して以来、日本企業は同州に48億ドルを超える投資を行っており、ほぼ16,000人分の雇用を創出しています。

アラバマ州政府商務省は、バーミングハム市で開催される2015年の合同会議を支援しています。またリージョンズ・フィナンシャル社のグレーソン・ホール (Grayson Hall) 最高経営責任者がこの会議の共同議長を務めます。